

ポジション	ライトウイング
スティック	右
生年月日	87年10月2日
出身	マディソン、アメリカ・ウィスコンシン州
身長・体重	180cm、82kg

キャリア

シーズン	所属リーグ	所属チーム	レギュラーシーズンの成績	プレーオフの成績
03 - 04		NTDP ・U17	32試合 31得点 49ポイント	
	NAHL	NTDP	30試合 21得点 33ポイント	
04 - 05		NTDP・U18	31試合 41得点 73ポイント	
	NAHL	NTDP	14試合 11得点 25ポイント	
05 - 06	WCHA	ミネソタ大学ゴールデン・ゴーフアーズ	39試合 18得点 51ポイント (優勝)	
	NCAA	ミネソタ大学ゴールデン・ゴーフアーズ		
06 - 07	NHL	ボストン・ブルーインズ	70試合 11得点 29ポイント	
	AHL	プロビデンス・ブルーインズ	2試合 1得点 1ポイント	
07 - 08	NHL	ボストン・ブルーインズ	82試合 19得点 37ポイント	4試合 3得点 4ポイント
08 - 09	NHL	ボストン・ブルーインズ	70試合 36得点 60ポイント	11試合 6得点 11ポイント
09 - 10	NHL	トロント・メイプルリーフス	70試合 30得点 50ポイント	
10 - 11	NHL	トロント・メイプルリーフス	82試合 32得点 64ポイント	

国際大会 (アメリカ代表)

シーズン	大会	成績
04	U18世界選手権	6試合 7得点 10ポイント
04 - 05	世界ジュニア選手権	7試合 4得点 6ポイント
05	U18世界選手権	6試合 9得点 16ポイント (優勝)

05 - 06	世界ジュニア選手権	7試合1得点11ポイント
06	世界選手権	7試合1得点2ポイント
07	世界選手権	7試合2得点5ポイント
08	世界選手権	7試合6得点10ポイント
10	バンクーバー五輪	

個人タイトル

タイトル名	受賞年度	受賞時の所属チーム
U18世界選手権大会ベスト6	04	アメリカ・U18代表
	05	アメリカ・U18代表
U18世界選手権大会ポイント王	05	アメリカ・U18代表
U18世界選手権大会最優秀フォワード	05	アメリカ・U18代表
世界ジュニア選手権大会ポイント王	05 - 06	アメリカ・ジュニア代表
WCHA新人王	05 - 06	ミネソタ大学ゴールデン・ゴーフアーズ
ビル・マスタートン記念賞	06 - 07	ボストン・ブルーインズ

記録

U18世界選手権におけるアメリカ代表の歴代通算最多ポイント記録	26
U18世界選手権におけるアメリカ代表の歴代通算最多得点記録	16
U18世界選手権におけるアメリカ代表の歴代通算最多アシスト記録	10
NTDP歴代通算最多ポイント記録	180
NTDP歴代通算最多得点記録	104
NTDPシーズン最多得点記録タイ	52 (03 - 04・04 - 05)

抜群のスピードと手首のスナップの利いた鋭いシュートでゴールを襲う点取り屋。同じ年の同郷のストライカーであるライアンとよく比較されるが、ジュニア時代にはムラが多いことでも知られていたライアンに比べて、ケッセルはコンスタントに得点を重ねることで評価されていた。

いとこのD・モスもカルガリー・フレイムズでプレーするプロホッケー選手、妹アマンダは女子ホッケーアメリカ代表、弟ブレイクは07年にニューヨーク・アイランダーズにドラフト指名されているという、生粋のホッケー一家で育つ。故郷ウイスコンシン州でホッケーを始め、16歳の時にNTDPにスカウトされ、2年間在籍してNTDP歴代通算歳ポイント及び得点記録、そしてNTDPシーズン最多得点記録を樹立している。U18世界選手権にも2回出場し、準優勝と優勝を1回ずつ経験。05年大会ではポイント王に輝くなど、その実力はアメリカだけでなく世界中に知れ渡ることになる。U18世界選手権におけるアメリカ代表の歴代通算最多記録を、ポイント、得点、アシストの全てで記録した。05 - 06シーズンにNTDPを修了すると、WCHAの名門ミネソタ大学に入学。WCHA新人王とともに、マクノートン・カップも獲得している。この年は、世界選手権のアメリカ代表に選出されている。この大会の代表選手にプロでない選手が選ばれるのは極めて珍しく、それだけ期待されている選手だった。当然NHLスカウトが彼を見逃すはずがなく、06 - 07シーズン開幕前のドラフトでボストン・ブルーインズに1位指名（総合5位）された。

ドラフトされたその年に、18歳でプロに転向。開幕ロースターに名を連ね、順風満帆のスタートを切ったが、12月11日に睾丸ガンが発見されて闘病生活を余儀なくされる。しかし、12月16日に手術が終わって退院すると、1月5日にはコンディショニングの理由からブルーインズ傘下AHLプロビデンス・ブルーインズに送られ、2試合プレーしたのち1月9日にトップチームに復帰。たった1ヶ月、11試合の欠場で戦線に復帰したケッセルは、この年のビル・マスタートン記念賞（事実上のカムバック賞）受賞者となった。この年も世界選手権代表として戦っている。07 - 08シーズンはブルーインズを3シーズンぶりのプレーオフに導いた。プレーオフ1回戦で敗退したため3年連続で世界選手権代表になる。本格的にブレイクしたのは08 - 09シーズンで、怪我で12試合欠場したにもかかわらず36得点60ポイントを記録した。

09 - 10シーズンに、ドラフト1位指名権2つと2位指名権1つと引き換えに、トレードでトロント・メイプルリーフスに移籍した。前年度に負ったケガを手術した上に、世界で最もファンが厳しいとさえいわれるトロントでの1年目は苦戦したが、それでも30得点を記録して意地を見せた。バンクーバー五輪のアメリカ代表にも選ばれている。10 - 11シーズンにも32得点を記録して、これで3年連続の30得点声を果たしてNHL屈指のエリートストライカーとしての地位を確立し、また自己ベストとなる64ポイントも記録している。